



第2回

観たいのに観れなかった映画賞

2024/4/3
投票結果発表
& 報告書公開!

#MME賞
#MME賞2024 #映像業界で働く女性で作る映画賞

第2回観たいのに観れなかった映画賞

～いやあ、時間がなくて～

投票結果報告書発表＜取材のお願い＞

性自認が女性のスタッフ・キャストが当事者となり 多忙で劇場に行けない「リアル」を表す映画賞 今年も開催

子供を育てながら働ける映像業界を目指し、業界全体の労働環境の改善に取り組む特定非営利活動法人映画業界で働く女性を守る会（swfi <https://swfi-jp.org/>）では、映画、ドラマ、TV番組全般に携わる仕事をしている性自認が女性の方が当事者となって作りあげる映画賞、第2回「観たいのに観れなかった映画賞～いやあ、時間がなくて～」を開催し、62名の方からの投票を頂きました。

この映画賞は、映画が好きで映像業界に入ったのに、仕事や家事が忙しく映画を観に行く時間や気力がない、自分が関わった作品がノミネートされてもメインキャスト、メインスタッフでない限り会場に呼ばれることもない、そんな女性たちが当事者となり楽しめる映画賞を作りたい、という思いで昨年から開催しています。映画をなかなか劇場に観に行けないから、「観たいのに観れなかった映画」ならたくさんある！ジェンダーバランス調査で受賞者や審査員の女性比率が低いなら、最初から女性だけで作り上げよう！そんな映像業界で働く女性のリアルがみえてくる「観たかったのに観れなかった映画賞」。

今年の回答者は昨年と同じ62名でしたが、その半数以上は今年初投票の方々でした。また、今年から、映画を観に行く回数が前の年に比べて増えたか？という質問も設け、継続開催していくことにより、映像業界で働く女性たちの映画鑑賞にさく時間の変動の可視化を目指します。

つきましては、4月3日（水）に投票結果を発表いたしますのでお知らせ申し上げます。本映画賞は授賞式は開催いたしません、上位3位入賞作品に記念品の授与を致します。記念品授与の際のご取材もお受けいたしますので、報道各位におかれましては、ぜひ積極的にご取材いただきますようお願い申し上げます。

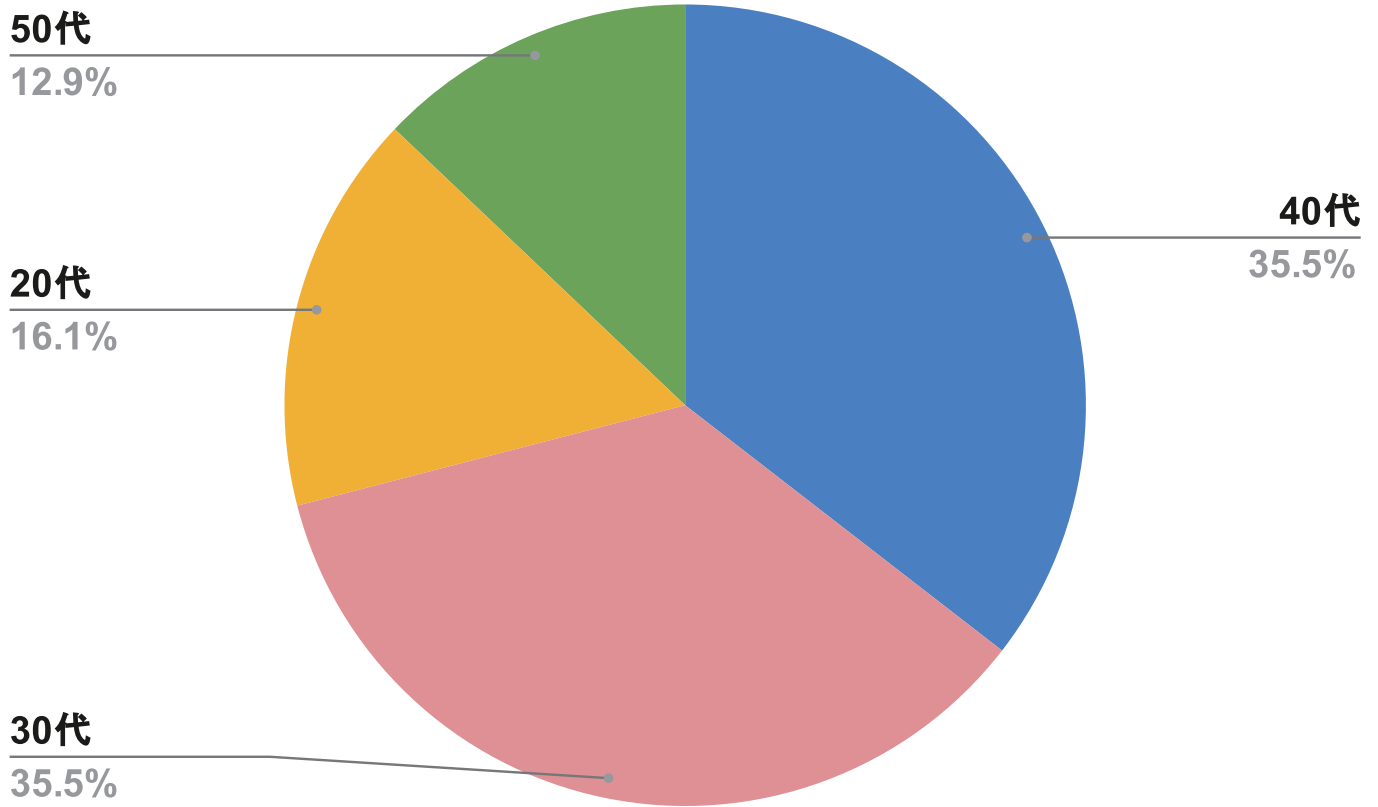
現時点で日程は未定ですが、決まり次第情報展開させていただきます。
ご取材をご希望の方は下記メールアドレスまでお問い合わせ下さい。

info@swfi-jp.org

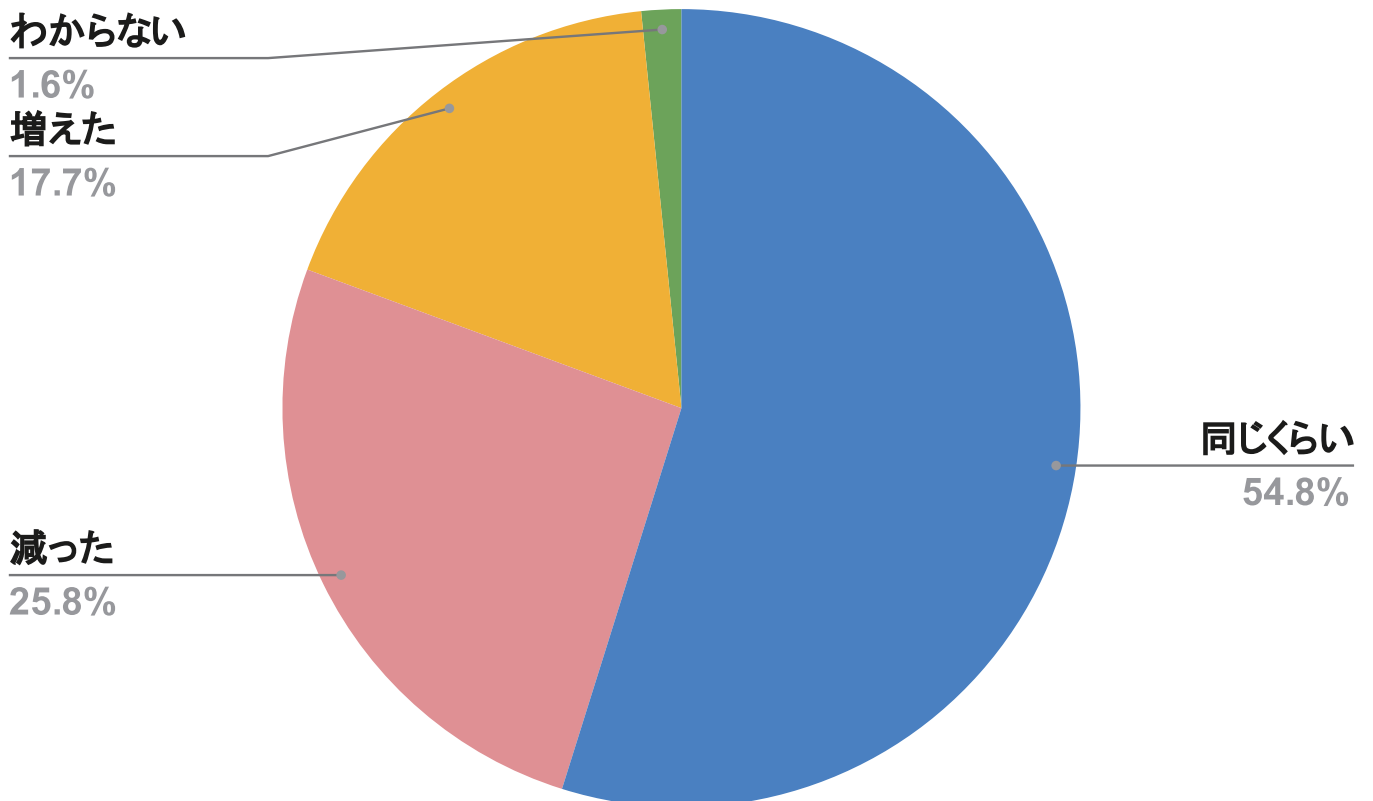


◆投票結果一部抜粋

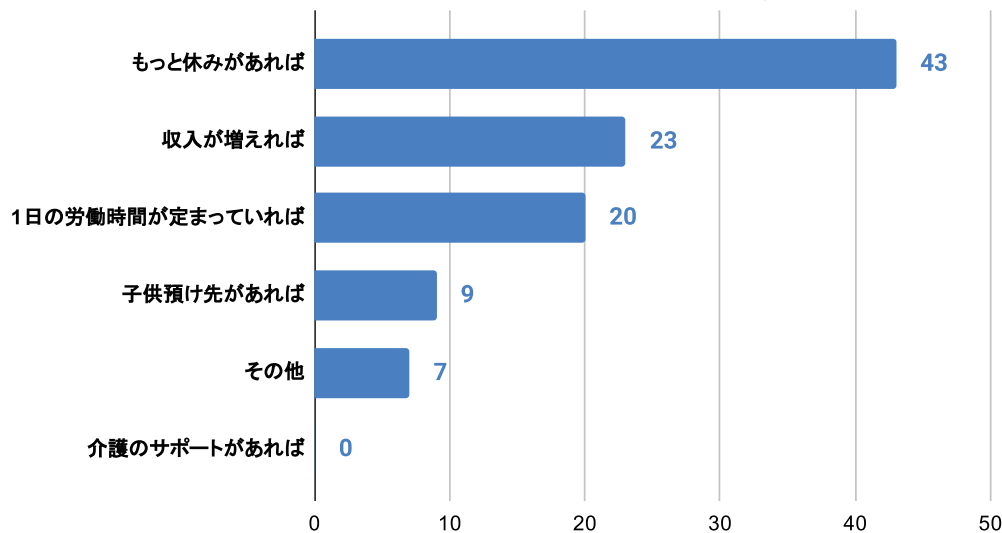
Q1, あなたの年齢をお答えください。



Q6, 2023年は2022年に比べて、体感として映画館に映画を見に行く回数が増えましたか？



Q4. どのような状況であれば観に行けたと思いますか？（複数回答可）



◆自由記述抜粋

・観たいと思ったものは数本なので、絶対見たいと思う映画は行けていると思った。

・仕事、家事育児、映画鑑賞となると、なかなか映画鑑賞の優先順位は上げられず…。タイミングをはかっているうちに観たかった映画の上映時間は観づらい時間帯になっていたり、終了してたり。そして、映画料金の値上がりもやはり優先順位を下げってしまった一因となった気がします。

・観よう観ようと思っていて忘れていた的なことが多い。雑魚ども、せかいのおきくは本当に悔しかった。今年はスマホのよく見るページにタイトルをいれておくようにした。

・2023年は自分が見たいと思う作品があまりなかった。

◆この映画賞に関わる資料は以下URLまたは右のQRコードよりダウンロードが可能です。
<https://swfi-jp.org/posts/news/2ndmmeawards-result/> ※4/3 9:00公開

◆このプレスリリース資料のダウンロードは下記 URL または右の QR コードより可能です。
<https://swfi-jp.org/posts/questionnaire/2ndmmeawards-release/>

結果発表



プレスリリース



◆映画賞開催の背景

毎年、国外問わずさまざまな映画祭、映画賞が開催されますが、映画やドラマの制作に携わる人にとっては、日々の業務で忙しく、当事者意識を持っていない場合が多い現状があります。映画が好きで、映像業界に入ったのに、そういった楽しみであるはずの映画祭、映画賞を当事者として関わることができない。また、昨今の映画賞の受賞者や審査員のジェンダーバランス調査では、女性の割合が少ないと指摘されていたりしますが、そういった調査結果について、そもそも調査自体について、現場の最前線にいる女性スタッフ、キャストへは情報が行き届かない現状があります。

そこで、swfiでは日々の業務で忙しく、劇場に映画を観に行く時間がない、性自認が女性の方たちが当事者になれる映画賞として、「観たいのに観れなかった映画賞」を企画しました。この映画賞は、「映画やテレビ等、映像制作に携わる仕事をしている女性が当事者になれる、楽しめる映画賞を作りたい」という思いで、今までなかった「映像業界で働く当事者たちで作り上げる映画賞」として昨年より開催しています。

映画が好きで業界に入ったのに、休みもなく映画をみに行く時間、気力もない、という状況に陥っているのは、健全なことなのか？という疑問を改めて一人一人に考えてもらうきっかけになれば、そしてその意識が、一人一人の労働環境の改善につながればと考えます。

この映画賞を開催することが、少しずつ意識や環境の改善に繋がり、映像業界で働く人が、観たい映画を何本でも映画館で観られるような労働環境へと変わる未来を目指して、この『観たいのに観れなかった映画賞』がなくなることを目標としています。

（観たいのに劇場に観に行けなかった悔しさを表すため、協議の結果「ら」ぬき言葉である「観れなかった」を使用しています。）

◆主催団体概要

NPO 法人映画業界で働く女性を守る会

swfi (スウフィ) は、映画業界を「子供を育てながら働ける業界にしたい」「映画をつくるたのしさを実感でき、入りたい、続けたいと思える業界にしたい」という思いから誕生しました。

私達は、まず女性が抱える悩みや問題点をみんなで共有しながら、労働環境の改善を目指し、それにより女性だけに限らず、芸能・映像業界で働くあらゆるジェンダーの人が安心して働けるようになることを目標にしています。

映画やドラマなどの映像制作の世界は、夢があり、とても楽しいものです。

ですが、長時間労働、セクハラ、パワハラ。他の職業と同じく、沢山の課題を抱えています。しかし大半がフリーランスのスタッフで成り立っているこの業界では、労働組合のようなものもなく、周知された相談窓口や補償制度などがほぼありません。これらは女性だけではなく全てのジェンダーにとっても問題ですが、今の日本の映像業界では、子供ができて業界を去っていくのはほぼ女性です。業界に残ったとしても、今までのようには働けず、キャリアを活かせない、賃金を値切られる、、、そんな経験をするのも、女性が大半です。セクハラ、パワハラに悩んでも、周りからはそれがハラスメントだと認識されていない場合も多く、されている本人もハラスメントだと気づいていない場合もあります。

女性スタッフがどんどん増えている今、自分たちの置かれている状況をみつめて、意見交換ができる場をつくりたい。自分たちの心地の良い映像業界をつくっていきたい。女性スタッフが安心して働き、安心して産休育休を取れるようになり、労働環境が改善されれば、女性だけでなくあらゆるジェンダーのスタッフが働きやすい、持続可能な世界になっていくはず、という思いで活動しています。

スタートアップメンバーは子育て中の女性スタッフに限らず、男性スタッフ、子供のいないスタッフ、妊娠を機に業界をやめた女性など多様なメンバーがおり、ジェンダー問わず賛同してくださるメンバーで活動を行っています。

◆活動内容

設立すぐに、「コロナ禍における芸能・映像業界で働くスタッフ・キャストへの影響実態調査」を実施。2023年には、第1回「観たいのに観れなかった映画賞」開催。

action4cinema 公開「日本版 CNC、なぜ必要？」動画内に、swfi 実施の「映像業界」なぜやめた？アンケート調査の結果が引用される。連合Wor-Qアドバイザリーボードメンバーに代表 SAORI が参加。フリーランスサミット登壇。12月には、ハラスメントセミナー開催。

正会員登録者は、フリーランス協会の提供するベネフィットプランへの加入特典プランあり。

WEB サイト内での相談窓口の設置、気軽に意見交換ができるオンライン談話室を毎月開催、フリーランスで映像業界で仕事をするための心得とストレスチェック票を記載した「心得カード」の作成・配布、専門学校での講演など、働きやすい映像業界にするために、啓発活動を中心に行っています。

・ 団体名：特定非営利活動法人映画業界で働く女性を守る会
Support for Women in the Film Industry.(swfi)

・ URL : <https://swfi-jp.org>

・ 代表理事：SAORI

・ 設立日：2020年1月8日

・ お問い合わせ：info@swfi-jp.org



SNS

X https://twitter.com/swfi_jp

instagram https://instagram.com/swfi_jp

Facebook ページ <https://www.facebook.com/swfijp/>

